

認定NPO法人

国境なき子どもたち

2024年度活動報告書

Annual Report 2024

国境を越えてすべての子どもに教育と友情を

— ご挨拶 —

2025年5月1日

ビジョン (KnK が目指す社会)

KnK は以下の社会をつくることに貢献します。

- ・子ども一人ひとりが教育を受け、夢を描ける社会
- ・子ども一人ひとりが尊重され、安心して健やかに成長できる社会
- ・子どもたちが互いの違いを認め合い、友情を育み、共に成長できる社会

ミッション (KnK が果たす使命)

KnK は、ビジョンを実現するため、以下を使命とします。

- ・教育や職業訓練、自己表現の機会を提供し、子どもたちの将来の選択肢をひろげ、その健全な社会参加を後押しします。
- ・貧困や紛争、災害で困難な状況にある子どもたちに寄り添い、その成長過程にふさわしい生活を送れるよう手助けします。
- ・日本の子どもたちが、世界の子どもたちの抱える現状を知り、多様な価値観を学び、互いに支え合える次世代を育成します。

バリュー (KnK が大切にすること)

KnK は、子どもと子どもに関わるすべての人と共に成長するために、以下のことを大切にします。

子どもたち：出会った子どもをあるがまま受け入れ、その可能性を信じ、大切な存在として向き合います。

支援者：支援者と子どもをつなぐ架け橋となり、子どもたちの声や成長の様子を届けます。

現地パートナー：事業を共に実施する現地パートナーの価値観・経験を尊重し、信頼関係を築きます。

市民社会：支援金を有効活用し説明責任を果たすよう努め、世界の子どもの現状について情報発信します。

国境なき子どもたちで働く仲間：主体性と向上心を持って考え方行動し、子どもたちの未来のために協力し合います。

世界中に気候不順の波が押し寄せ、自然災害が多発したこの一年でした。その一方で「人災」にも振り回され続けています。さまざまな悲しい場面に本当に心が痛みます。

こうした状況の中でも、私たちにできることが何かあるはずです。差し出せる手には限りがあるでしょうけれど、いつも子どもたちの心に寄り添いたいと願っています。

学ぶ喜びに触れること、その喜びを深くしてゆくこと、広くしてゆくこと、見える形でその成果を手に入れること、そして結果として、前向きな生きる姿勢を手に入れること…ある時、フィリピンのスラム地域で、一人の父親が目をしばたかせながら話しかけてきました。「ここで生まれ育った娘が、まさか学校の教師になれるとは…」

皆さまからの温かいお気持ちが、さまざまな環境の中で暮らす子どもたちの「夢と希望」を育てています。私たちもその明るいほほえみを共にすることができますこと、これに勝る喜びはありません。

いつも変わらぬご支援に深く御礼申しあげますとともに、まさにこれから一歩を踏み出そうと願う子どもたちと共に見守ってくださいますよう、お願い申しあげます。

認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

会長 寺田朗子



共に成長するために

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



目 次

1	会長 からのご挨拶	19	支援者・イベント参加者からのメッセージ
2	子どもたちをめぐる課題と KnK の教育支援活動	20	III. 団体組織
4	2024年海外事業振り返り	21	IV. 会計収支 (2024年度収支報告)
6	現地からの声	22	V. 謝辞
8	I. 各国での支援活動 カンボジア／フィリピン／バングラデシュ／ ヨルダン (シリア難民支援)／パキスタン／パレスチナ	24	ご支援のお願い
16	II. 国内教育プロジェクト・広報活動 友情のレポーター／写真展／友情の5円玉キャンペーン／ イベント／メディア	27	沿革

子どもたちをめぐる課題とKnKの教育支援活動



カンボジア

KnK活動地がある農村地帯の家庭は、経済成長の恩恵を受けられず、保護者が教育費を捻出できないために通学を断念する子どもや、家計を助けるために家事労働を手伝い、小学校すら通ったことのない若者も少なくありません。農村地帯は学校環境が整備されておらず、交通手段も限られている中、家から遠く離れた街の学校へ通うことも現実的ではありません。この他、保護者が出稼ぎのために家を離れ、子どもを十分にケアできないケースや、家庭内で暴力や性暴力を受けて家に居場所がないなど、子どもたちを取り巻く環境に多くの課題があります。2022年の統計で、高校の就学率がわずか28%¹⁾しかないことが、それを物語っています。

(¹⁾ Ministry of Education, Youth and Sports

- ・極度の貧困などで自力では教育を受け続けることが難しい青少年に、教育機会を提供します。
- ・職業技能や生活力を十分に持たない若者に、職業訓練やライフスキル研修、就業機会を提供します。
- ・若年女性が、商品の生産から販売までを完全に独立して行えるよう、サポートします。



フィリピン

フィリピン経済は、2024年も5.6%の安定したGDP成長率を維持しています。²⁾一方、フィリピンの子どもたちの貧困率は、人口全体の貧困率よりも高くなる傾向にあることが指摘されており、³⁾子どもたちの状況については注視が必要です。

入手可能な最新データ（新型コロナウイルス関連の学校閉鎖前）によると、フィリピンの小学校高学年の児童の91%は読解力が十分ではないことが指摘されています。⁴⁾新型コロナウイルス感染拡大により122カ国中最長の学校閉鎖を余儀なくされたフィリピンでは、インターネットやデジタル学習教材へのアクセスの格差も影響し、この状況はさらに悪化したとされています。⁵⁾

(²⁾ (⁴) World Bank (³)Senate of the Philippines (⁵)Business World Online

- ・虐待・育児放棄を経験した子ども、法に抵触した青少年を保護し、生活・教育支援を行います。
- ・地域の子ども・若者に教育の機会を提供し、彼ら自身のコミュニティ活動を応援します。
- ・子どもたちのため、保護者自身が活動に参加し、自ら学び工夫できるよう、働きかけを行います。



パキスタン

新事業地であるパロチスタン州は、国土の3分の1が水没した2022年の大洪水で最も被害を受けた地域です。安全な飲料水が不足し、衛生管理や医療施設がなく、住民の80%以上が危機的な貧困状況に置かれています。女子が通える安全な学校の設備も圧倒的に不足しています。さらに、地域に深く根付く習慣的価値観、児童労働や強制的な児童婚、ジェンダーを基にした暴力など、様々な要因から女子の教育への機会が妨げられています。こうした中で近年、度重なる気候変動の影響が一層の悪影響を及ぼし、教育格差がさらに広がっています。

- ・より多くの女子が安心・安全に教育を受けられるよう、度重なる洪水や老朽化により破壊された学校の校舎の再建と衛生設備などの整備を行います。
- ・質の高い教育を提供するための教員研修や、女子生徒がライフスキルを高めるための研修を実施します。
- ・地域や保護者へ向けた女子教育への理解促進に取り組みます。



バングラデシュ

家庭の経済的貧困や暴力、育児放棄などが原因で、家を出て路上生活する子どもの数は、首都ダッカだけでも30万人いるといわれ、2011年に開所した「ほほえみドロップインセンター」に通う子どもの人数も減少しません。

路上生活は、食事の栄養が偏り、汚染された川で身体や衣類を洗うなど、健康面に深刻な影響を与えていました。また、善悪の判断力が育まれなかっただため危険な状況に巻き込まれることがあり、暴力や薬物、犯罪などに手を染めるケースも少なくありません。一方、子どもの権利に無理解な大人も多く、子どもたちの生活エリアを行き交う大人から暴力をふるわれることもあります。

- ・安心・安全に過ごせる居場所をつくり、路上の子どもたちが健やかに成長する機会を提供します。
- ・地域で啓発活動を行って関係を構築し、連携して子どもたちを見守る協力体制を整えます。



ヨルダン（シリア難民支援）

長年、移民・難民を周辺地域から多数受け入れているヨルダンでは、難民の避難生活の長期化により、受け入れ側の財政負担が増加し、所得格差や高い失業率なども課題となっています。このように多様な文化的背景を持つ人々が一緒に暮らすヨルダンにおいて、他者への理解や共生のための社会性育成が不可欠となっています。

ザアタリ難民キャンプでは、2024年12月のアサド政権崩壊を受け、シリアへ帰還する人が出てきています。一方で、経済的な不安など様々な理由でヨルダンに留まる人々もあり、シリアへの帰還が進むかは不透明な状況となっています。



パレスチナ

ヨルダン渓谷は、地域の88%の治安・行政をイスラエル軍に管理され、イスラエル入植地や入植農園が入り組んでいます。さらに、入植予定地において立ち退きや家屋破壊の対象となる、嫌がらせを受ける、軍の訓練が行われ爆発性残存物で負傷するなど、占領の影響を大きく受けています。

図書館や児童館などの公共施設、子どもや若者が安全に集まる公園や施設も少なく、若者は多くの時間を家で過ごし、子どもは安全ではない道端や山の中で遊んでいます。2023年10月に始まったガザ戦争以降は、イスラエル軍によるチェックポイントの設置、入植者による暴力行為、イスラエル軍による侵攻が相次いでいます。

- ・子どもたちの社会性を育む日本の特別活動に着目し、ヨルダンの公立学校での特別活動の実践と普及の仕組みづくりに取り組みます。
- ・教育関係者が、特別活動を継続的に実施・普及できるよう、基盤となる環境を整備します。
- ・学校と保護者の連携を図るため、学校への保護者参画機会づくりに取り組みます。
- ・難民キャンプにおいて、アラビア語の強化と生徒の個別サポートを継続すると同時に、保護者向けのアラビア語と心理ケアの研修を行います。



- ・若者自らが地域活動、青少年向け研修、子ども向け活動を自律的に実施できるよう、能力を育成します。
- ・研修を受けた若者たち自らが、子ども向け活動を始めとする地域活動や、次の世代を育成する青少年向け研修を実施します。

SUMMARY of KnK's ACTIVITIES 2024

皆さまからの継続的なご支援により、多くの子どもが学ぶことができました。

■カンボジア■

居住型施設「若者の家」とその周辺地域で暮らす子ども・若者約40名が通学を継続でき、全員が進級・進学など、自立に向けて一歩前進しました。家族と遠く離れて過ごす子どもや、経済的に極度の貧困で困難を抱える家庭の子どもたちに、ソーシャルワーカーが丁寧なカウンセリングも行いました。

バンテアイミエンチェイ州では、職業訓練に75名、ノンフォーマル教育クラスに53名が参加しました。後者の支援では、小学校を中退・退学した子どもや学校に一度も通ったことがない子どもたちが、クメール語の読み書きや計算ができるようになり、小学校修了相当の資格を取得し、中学校へ編入できた子どももいました。

■フィリピン■

パヤタス地域で実施するノンフォーマル教育クラスの受講生の内39名が、2024年4月に実施された審査に合格し、ノンフォーマル教育を修了できました。合格を手にした修了生は自己肯定感を自覚し向上させ、積極的な仕事探しにもつながり、39名の内11名が就職し、22名が公立学校へ編入、通学を継続しています。

居住型施設「若者の家」では、虐待・育児放棄・ストリートチルドレンなど特別な保護を必要とする子どもたち21名が、共に生活しながら公立学校やノンフォーマル教育クラスで勉学に励みました。

■ヨルダン（シリア難民支援）■

2011年のシリア紛争をきっかけに、ヨルダン・ザアタリ難民キャンプで避難生活を始めたシリアの子どもたち、そしてキャンプで生まれ育った子どもたちへの教育活動も、2013年3月の開始から10年以上が経過しました。これまで、その時々でより良い支援を模索し、粘り強く、試行錯誤を繰り返しながら活動を続けてきました。2024年12月8日、祖国シリアのアサド政権が崩壊しました。これから故郷へ戻ることになった時、キャンプでの様々な学びが今後の生きていく糧になるよう、教育機会の提供を続けていきます。

一方、アンマンの公立学校を中心に、日直や学級会の実践も続けており、34校で1万人を超える子どもたちが取り組みに参加しました。

■パキスタン■

パキスタンで2017年より展開する女子教育の向上事業は、活動地を南西部のパロチスタン州へ移し、2024年2月から活動をスタートさせました。安全の確保が難しく、外部からの支援が届きにくい地域において、大雨やモンスーン、50度の酷暑といった気候変動の影響も受けながら、2024年は小学校2校、中高一貫校1校、中学校1校の計4校の校舎を再建できました。対象4校の純就学率は、以前の41%～52%から事業終了後には69%へ上昇し、出席率は40%～60%から84.5%へ大幅に改善されました。



危機的な立場にある女子の状況の改善に着手しました。

■バングラデシュ/パキスタン■

バングラデシュではKnKが2023年に実施した調査の結果、路上で暮らす女子の割合が男子の割合とほぼ変わらないことが判明しました。来所者のほとんどが男子である「ほほえみドロップインセンター」において、女子も通いやすくなるよう、念願であった女性ソーシャルワーカーの増員を実現できました。女子のセンター利用者から「女性に相談できることがうれしい」との声をもらいました。

一方、女子教育の向上事業を展開するパキスタン・パロチスタン州では、強制的な児童婚や身体・精神的な暴力などで困難な状況にあるにもかかわらず、女子本人が声をあげられず苦しんでいるケースを地域の方々と特定し、適切なケアができるよう支援機関につなげる活動を、当地で初めて取り組み始めました。



パレスチナの若者たちが、地域に貢献したい気持ちを自ら形にしていきました。

■パレスチナ■

パレスチナでは2023年10月以降、活動を実施することが困難な時がありました。人々が悲しみや悔しい思いを抱き、攻撃や暴力を身近に感じる日常の中、若者たちは子ども向け活動をはじめとする地域活動を自ら継続し、参加する子どもや地域の方々が楽しい時間を過ごせるよう努める姿が見られました。

活動を始めた頃は、「人生において何もすることがない」と嘆いていた若者たちが、地域において必要とされ、非常事態でも前向きに活動を続けるようになったのは大きな変化でした。今後も世代や地域を超えた若者たちの活動が継続されることが期待されます。



保護者が生き生きと活動に参加する姿は、子どもたちにも良い影響を与えます。

■フィリピン/ヨルダン■

フィリピン・パヤタスのチルドレンセンターの一角で、保護者の発案から始まったガーデニング活動は、収穫した作物を地域で安く提供したり、収益を新しい事業の元金として活用するなど、KnKの活動に新たな広がりをもたらしています。

ヨルダンの活動においても、現在KnKが普及を目指す特別活動へ保護者の参加が増えました。例えば、ザアタリ難民キャンプで実施している保護者向けのアラビア語レッスンが、保護者にとっての学び直しの機会になると同時に、KnKのスタッフと関わりを持つことで、保護者が学校の状況や子どもたちの様子により関心を持つようになり、子どもたちが実践する特別活動の参観などにつながるケースも出てきました。



「職業訓練生には、好きなことに挑戦し続け私のように夢を叶えてほしいです」

—カンボジア—



チエンダ（美容師 / 23 歳）
KnK の美容職業訓練を受講

私は中学 1 年生の時に学校を中退した後、カジノのディーラーや家畜の世話などをして生計を立てていました。数年前に結婚し、今はパートナーと 3 歳の娘と暮らしています。結婚前に美容室でシャンプーをしてもらった時、女性でも収入を得られる場所があることに気づき、私もいつか美容師になりたいと思うようになりました。そして 2023 年、美容の職業訓練が始まると聞き、参加を決意しました。

訓練修了後は、ボランティアとして美容訓練を手伝いに来ていた美容室オーナーの所で働き始め

ました。初めての勤務日は緊張しましたが、オーナーの個人レッスンを受けてスキルを向上させていきました。初めてお給料をもらえた日は、何か自分が認められた気がして、すごくうれしかったです。

そして、2025 年 2 月に自分のお店を開きました。まだ始まったばかりですが、周りにあまり美容室がない場所を選んだこともあり、滑り出しは順調で、家計にも余裕が出てきました。KnK の訓練がなければ今の生活はなかったので感謝しています。

「『学校を卒業していなかったら、ノンフォーマル教育クラスがあるよ』と周りに伝えたい」

—フィリピン—



ノア（20 歳 / 高校生）
ノンフォーマル教育修了生

僕は KnK が行っているノンフォーマル教育クラスで学んだ後、ノンフォーマル教育修了試験に合格し、現在は 11 年生として高校で学んでいます。KnK のクラスの良い点は、仕事をしながら通えるところで、僕は週 6 日、朝 6 時から夜 7 時まで洗車の仕事をしながら、クラスがある週 3 日は仕事を抜けて 13 時から 17 時までセンターで勉強し、家では 3 ~ 4 時間、勉強していました。宿題は溜めずにできるだけすぐ終わらせるよう頑張りました。

た。審査に合格した時はうれしかったです。クラスメイトと食事したり、歌ったりしてお祝いました。姉も「おめでとう」と言ってくれました。

現在は高校卒業を目指しています。高校生活は、最初はハッピーでしたが、だんだん授業が難しくなってきました。現在は人文社会学の質的調査をしていて、締切を守るために睡眠時間を削って頑張っています。将来はパイロットになる夢を叶えたいです。

「路上では生きたくない。良い生活をしたいです」

—バングラデシュ—



スリーティ（16 歳）
2022 年からドロップインセンター利用

私は両親と暮らしていた頃、学校へ 5 年生まで通っていましたが、父の 2 回目の結婚で、私の生活は地獄に変わってしまいました。義母から虐待と育児放棄にあい、父は私を信じてくれず、家を追い出されてしまいました。そこから路上生活が始まりました。実母も海外に行ってしまい連絡ができません。初めてセンターに来た時は、知っている人が誰もいなくて寂しかったですが、今は同性の友だちと会えるので定期的に通っています。食べ物に困らないですし、

安全な環境で休むことができます。久しぶりに勉強する時間もできました。

女性スタッフから教わったことで一番大切なことは、身体と歯を清潔に保つことと、月経についてです。生理用ナプキンの使い方を教えてもらいました。そして、路上での色々な危険から自分の身を守る方法も習いました。私たち女子は立場がとても弱く、生活や眠る場所がありません。ドロップインセンターでもっと多くの時間を過ごせるようになればと願います。

「研修後の母は、私の話をよく聴いてくれるようになり、とてもうれしいです」

—シリア難民キャンプ（ヨルダン）—



アンファール（13 歳 / 7 年生）
母親が心理ケア研修に参加

私からは、KnK の心理ケア研修に参加した母とのコミュニケーションの変化について話をさせてください。母が研修を受けた後、実践トレーニングとして、私が母に 3 分間話し続け、母はそれを傾聴する練習をやってみたことがあります。私は、話題として中間テストの結果が予想よりも悪かったことを母に話しました。実は、その話は以前すでに伝えていたことですが、その時は理由も聞かれずにいきなり怒られ、詳しいことを何も話せませんでした。言い訳にはなっていませんが、中間テストの前に他団体が放課後に開いて

いるセンターでパソコンを教えるボランティアを引き受けたりして忙しく、テスト勉強に集中できなかったのです。そういうことを話せて、スッキリしました。

研修に参加してから、母が深呼吸して落ち着こうとする姿を見かけたことがあります。以前は母との会話にとてもストレスを感じることがあり、特に私がよくないことを話す時に緊張して吃音が出来てしまい、私も母も困惑していました。ですが、今は私の話を詳しく聴いてくれるようになって、とてもうれしく思います。

「教育は、私にとってすべてです。将来は医者になり、地域の女性を助けたいです」

—パキスタン—



シドラトゥル（15 歳 / 10 年生）
KnK が再建した学校に通学

教育は、私にとってただ大切なだけでなく、私のすべてです。貧困の闇から私を導いてくれる光があり、可能性に満ちた未来への扉を開く鍵です。多くの女子が今でも「学校に通う意味はない」と言われてしまう村の貧しい家庭に生まれ育った私は、教育の欠如が、色々な夢が芽生えようとする前にすでにそれらが打ち砕かれてしまうことを目の当たりにしてきました。私は、そんな思いをしたくありません。

私には医者になる夢があります。将来、地域の女性たちが、ケアしてくれる人がいないために、沈黙したまま苦しむことのない未来を築きたいで

す。いつか自分の病院を開いて、尊重と思いやりの気持ちを持って女性を治療したいです。その夢を実現するために必要なすべては、教育から始まります。

私にとって、教育は鳥の翼のようなものです。教育がなければ、私は生まれた時と同じ苦難のサイクルから抜け出せなくなってしまうでしょう。でも、教育を受ければ私は立ち上がり、飛び立ち、そして周りの人たちも私と一緒に連れていけることができます。教育は私の声であり、私の力であり、自由への道なのです。

「地域活動の実践を通して、次の世代の子どもたちを応援したいです」

—パレスチナ—



ユニス（19 歳 / 農業に從事）
地域活動を企画・実施

KnK が支援する地域活動に僕が参加を決めた理由は、研修や活動内容がポジティブで良いなと思ったからです。特に子ども向け活動は、僕が小さい頃にはそのような活動がなかったので、地域の子どもたちに何か活動を届けられるのは良いなと思いました。研修では、人との接し方や責任感、物事を見るときの新しい視点や活動に真面目に取り組むことなど、今の生活や今後の人生でも役立つことを教わりました。僕の一番の変化は、人前に立ち、自分の意見を言えるようになり、色々な面で自信がついたことです。子ども向け活動を実

施するようになってから、道やバスの中で保護者の方からお礼を言ってもらうことが何度かありましたし、子どもたちからは次の活動について聞かれます。

研修でお世話になった先生から、「地域を変える方法のひとつは、新しい世代を育てる」とだと教わりました。自分よりも年下の子どもたちに、勉強の継続や教育の大切さ、問題に直面した時の解決の仕方を教えて、彼らを応援していきたいです。

カンボジア

青少年の教育・自立支援（「若者の家」／コミュニティベース）、 若年女性のエンパワメント事業

■実施期間 ■ 2000年9月～継続中

■実施地域 ■ バッタンバン州

■被益者とその数 ■ 10歳～22歳までの青少年 94名、女性 8名

■パートナー・関連諸機関 ■ 公益財団法人日本国際協力財団、寺田倉庫株式会社、
カンボジア社会福祉・退役軍人・青少年更生省、内務省バッタンバン支局、保健省バッタンバン支局など



カンボジア政府は近年、居住型施設よりも、青少年が家庭や地域で生活しながら支援を受ける「コミュニティベース支援」を推奨している。KnK カンボジアでも、「若者の家」を維持しながら、コミュニティベース支援にも力を入れ、小学生から大学生を対象に教育・生活支援やカウンセリングを行っている。



学校から帰宅する「若者の家」の子どもたち



KnK の支援を受け、自宅から通学する女子生徒

居住型施設「若者の家」の運営

・2024年は14名が支援を受け、1名が授業料免除で大学進学を果たした。9名は引き続き公立中・高等学校に通っている。KnKは制服や食事、居住スペース、日用品や文房具など生活と学業に必要な物を提供している。

・居住者や地域の子どもがより快適に施設を利用できるよう、卓球台やバドミントンコートなどのスポーツ設備の整備や、図書室の利用向上を進めている。さらに、カウンセリングルームの設置も計画し、心のケアに力をいれていく予定である。

コミュニティベース支援

・29名が支援を受け、通学を継続できた。今年度は1名が大学進学（KnKから奨学金給付）を果たし、1名が首都プノンペンの美容サロンで働くことを志し、27名が進級できた。

・支援内容として、貧困家庭を対象に、継続して学校に通えるよう学費や文房具、食費などの金銭支援を行っている。その他、親が出稼ぎ中の家庭では、子どもが孤独を感じているため、KnKのソーシャルワーカーが定期的なカウンセリングを実施している。

「若者の家」内の教育クラス（識字／教育）

・地域の子どもに開かれた教育クラスでは、識字クラスに14名、英語クラスに41名が参加した。異学年の子どもを一人の先生で一手に受け持つておらず、個々のニーズに合わせた授業が展開できない状態である。英語クラスは将来のキャリア選択肢を広げる機会を提供できるため、効果的な授業を模索している。

若年女性へのエンパワメント事業

・2023年に企業体として独立した本事業の完全独立を目指し、支援を継続した。委託販売店の数が2023年の3店舗から13店舗まで増やすことができ、販売収入が向上した。

・担当スタッフのサポートを受けつつ、受注から納品までを生産者8名で分担するなど完全独立まで歩みを進めることができた。次年には完全独立を果たせるよう引き続きマーケティングとマネジメント能力の強化を図っていく。

「ライフ・ロング・ラーニング・センター（LLC）⁶」と「コミュニティ・ラーニング・センター（CLC）」のアクセス拡大を通じた教育・就労支援

■実施期間 ■ 2023年3月～継続中

■実施地域 ■ バンテアイミエンチエイ州⁷

■被益者とその数 ■ 同等性教育プログラム受講者 53名、職業訓練プログラム受講者 75名、インストラクター 6名、

コミュニティワークショップ参加者 467名、LLCとCLC運営委員 125名、計 726名

■パートナー・関連諸機関 ■ 日本国外務省、バンテアイミエンチエイ州ノンフォーマル教育課、バンテアイミエンチエイ州各 LLC、各 CLC 運営委員会

本事業では、学校に通えないなどのリスクのある子ども・若者が、ノンフォーマル教育や職業訓練のプログラムに参加し、将来につながる教育や技術を習得できるよう、その環境を整える。

センターの環境整備と運営支援

- ・ポイペト市およびマライ郡に各1棟 LLC/CLC を建設し、必要な資機材、職業訓練用資機材、教育プログラム用資機材を提供した。
- ・オウチョロブ郡、ポイペト市、マライ郡で LLC/CLC 運営委員会の会議を開催し、運営に必要な年間計画の策定方法や資機材の管理方法について情報提供を行った。
- ・子どもや若者の保護者を対象に、家族が教育の重要性をより深く理解できるようになることを目的としたワークショップを6回実施し、計467名が参加した。



新しく完成したライフ・ロング・ラーニング・センター



地元住民を対象にしたワークショップ



美容師の職業訓練

職業訓練と就職支援

・ポイペト市およびマライ郡の LLC/CLC で、エアコン修理と美容の職業訓練コースを開講し、合計 75 名が受講。技術的な訓練に加え、若者が社会で生き抜く力を身につけられるようライフスキル研修を実施した。

・就職支援は、まずジョブフェアを開催し、受講生が希望する店舗を選び応募できる機会を提供。面接に合格した場合、職業訓練修了後に就業を開始する段取りで進めた。

教育プログラム

・7歳から16歳の不就学児や小学校卒業前に中途退学した子ども 53名に対し、同等性教育プログラムを実施。このうち 40名がコース修了後、小学校または中学校へ編入した。

(*6) LLC: Life Long Learning Center / CLC: Community Learning Center

(*7) ノンフォーマル教育から鍵となる学習内容を選んで実施するノンフォーマル教育プログラムの一つ。学校に行けない子ども・若者が授業を受け、試験に合格するとフォーマル教育修了と同等の資格を得られる。

フィリピン

青少年の保護・教育支援、コミュニティ活動

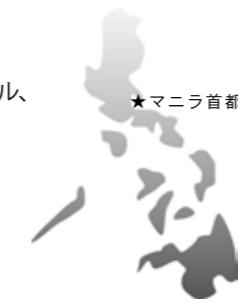
■実施期間■ 2001年7月～継続中

■実施地域■ マニラ首都圏ケソン市パヤタス、カラオカン・サウス市、カラオカン・ノース市グアダノービル、バゴンシーラン、マラボン市、ナボタス市、パサイ市、リサール州カインタ市、ラカン州マロロス市

■被辯者とその数■ 6歳以上の子ども、青少年、保護者 1,067名

■パートナー・関連諸機関■ 伊藤忠商事株式会社、寺田倉庫株式会社、

公益財団法人風に立つライオン基金、フィリピン社会福祉開発省、フィリピン教育省



居住型施設「若者の家」の運営

- 虐待、育児放棄、ストリートチルドレンなど特別な保護を必要とする子ども、危機的状況にある子どもたち 21名を受け入れ、衣食住、教育、心理ケア、医療ケアを継続して行った。



食事の準備をする「若者の家」のスタッフと子ども

- 外部の心理ケア専門家や「若者の家」常駐ソーシャルワーカーが定期的にカウンセリングを実施し、子どもたちのポジティブな姿勢や頼りになる行動など肯定的な面に注目して関わるよう心がけた。

- 子どもたちの声を適切に聞き、対応ができるよう、子どもとの月2回の会議を継続して実施した。

- 子どもたちはバスケットボールリーグへの参加、ハロウィーンパーティー、ファミリーデーなど様々な活動に参加し、自分の意見を表現できたり、周囲との関係を構築し、社会性を身に着けた。

- 保護者による「若者の家」の訪問の他、保護者向けセミナーを4回実施した。

コミュニティ活動

- バゴンシーラン地域65名、パヤタス地域141名がノンフォーマル教育に登録し、週に3回授業を実施した。



ノンフォーマル教育の授業の様子

- バゴンシーラン地域5名、パヤタス地域6名、「若者の家」卒業生3名に奨学金を給付した。奨学生とは定期的にミーティングを行い、必要に応じてスタッフが学校を訪問し、家族と話すなど、通学を継続できるようサポートした。

- パヤタス地域39名が、2024年4月に実施された学習計画、学習記録、エッセイなどの審査に合格した。ノンフォーマル教育を修了した生徒は自己肯定感が目覚ましく向上し、積極的な職探しにつながった。その結果、39名のうち11名が就職し、22名が通学を継続している。

- バゴンシーラン地域75名、パヤタス地域155名が補習授業/課外活動に参加した。少人数やペアでの学習など、友だちと一緒に問題を解き、考えを共有、お互いに学び合うようなアプローチを採用した。

バングラデシュ

ストリートチルドレンのためのドロップインセンター運営

■実施期間■ 2011年9月～継続中

■実施地域■ ダッカ管区ダッカ市ケラニゴンジ郡（ショドルガット船着き場）

■被辯者とその数■ およそ6歳から17歳までのストリートチルドレンのべ9,923名

■パートナー・関連諸機関■ 株式会社タムラ製作所、公益財団法人ウェスレー財団、Society for Underprivileged Families (SUF)



「ほほえみドロップインセンター (DIC)」

- 「ほほえみドロップインセンター（以下 DIC）」は平日（日～木）9時から17時まで開所し、1日40～50名を受け入れている。2024年の来所者数はのべ9,923名で、2023年から約3%増加した。

- 路上で生活する女子が増えていることを受け、女子も安心して来所できるよう女性ソーシャルワーカーを1名増員。雇用開始の4月から女子の来所者の増加が確認でき、3月の平均来所者数が1.5名/日だったのに対し、一番多い時で7月に4.5名/日に増えた。

- 家族と一緒に暮らしているものの、経済的事情もあり学校に日中通っていない子どもの保護者に対し、教育の重要性や



女性スタッフは子どもたちの心のよりどころ



遠足で思いっきり体を動かす子どもたち

【緊急支援】バングラデシュ東部地域における大規模水害の被災者支援 (2024年9月)

昨年8月中旬、豪雨により580万人以上が被災する甚大な水害が発生した。この内、100万人以上が洪水により遮断された地域で孤立し、7000校以上が休校となった。KnKは、現地パートナー団体SUFと協力し、他機関・他団体の支援が行き届きにくい孤立した集落が多いノアカリ県とラクシュミーピール県において緊急支援を行った。

有志ボランティアを含む30名体制で支援物資の配布を行った。2～3週間分の米、ビスケット、粉ミルク、小麦などの食料品、医薬品、応急手当、石鹼などの衛生キットなどを1025世帯に届けた。女性、子ども、高齢者、障がいを持たれる方のいる家庭へ優先的に物資を届け、特に子どもや妊婦のいる家庭へ支援物資が行き渡ることに注力した。さらに、医薬品を届ける際には感染症への予防対策も説明した。



支援物資を届けるSUF代表（左）

ヨルダン(シリア難民支援)

特別活動の継続的実施と普及のための基盤整備事業 シリア難民キャンプにおける支援継続

■実施期間■ 2013年3月～継続中(ザアタリ難民キャンプ)、2023年1月～継続中(JICA草の根技術協力事業第2期)

■実施地域■ アンマン県、マフラック県(ザアタリ難民キャンプ含む)

■被辯者とその数■ 公立校34校の教員、保護者、及び生徒(1～10年生の男女)、

アンマン県10,639名、マフラック県2,070名

■パートナー・関連諸機関■ ヨルダン教育省、マルカ教育局、カサバトアンマン教育局、北西マフラック教育局、

独立行政法人国際協力機構(JICA)、ユニセフ、宗教法人真如苑



特別活動の継続的実施と普及のための基盤整備 (アンマン、マフラック、ザアタリ難民キャンプ)

2024年は、ヨルダンの公立学校での特別活動の普及を目指し、教員研修や対象校での活動実践と振り返り、また保護者による理解とサポートを得るために保護者参画の促進に取り組んだ。

◇特別活動インストラクター研修◇

前年に続き、アンマンの教員に対しての研修を3日間に渡り開催し14名がインストラクターとなった。インストラクターとなった教員は所属する学校を中心となって、日直活動や学級会、縦割り班活動のいずれか、または複数の実施方法を他の教員に指導したり、新たに活動を開始する近隣校への導入支援や経験共有などの助言を行ったりするなど、活動の実践と普及に貢献した。



インストラクター研修

◇学校主体による特別活動の実施◇

アンマンにおける特別活動の実施校では、KnKによるモニタリングの回数を徐々に減らし、学校の教員が主体となって活動を実施できるような仕組みづくりを推し進めた。さらに、活動において教員がより適切に自己評価が行えるよう、既存の活動評価シートを改定した。



公立学校で実施している学級会

◇日本とヨルダンのオンライン教員交流研修会◇

6月29日に日本とヨルダンの教員を対象とした、両国での特別活動の実践について互いの知見を共有するオンラインでの交流研修会を開催した。ヨルダン会場の参加者は28名、日本会場の参加者は9名であった。本研修会については、埼玉県特別活動研究会の協力を経て実現した。日本の教員からは日直活動や学級会、縦割り班活動を実施するにあたって、子どもの実態に応じた指導やかかわりをすること、どのように教師と子どもで一体感を作るか、心がけていることを中心に発表があり、ヨルダンの教員からは日本とヨルダンの学校や子どもの違いや実践にかかる質問が活発に出るなど、双方にとって学びを深める機会となつた。



日本とヨルダンの会場を繋ぎ、オンライン教員交流研修会を実施

◇保護者への働きかけ◇

今年度は学校での保護者参画を促す活動に力を入れた。

- ・保護者の特別活動への理解を深めてもらい、積極的な参加を促すために、学校との協力の下、保護者会や活動見学を実施した。保護者会やアンケートを通じて、子どもに対する悩みや疑問を共有する保護者もあり、保護者の悩みを把握し、活動が子どもたちの社会性の育成にどのように役立つかを、具体的な事例を交えて説明することで活動への理解を促した。

- ・難民キャンプの学校における保護者会では、これまで開催時間が日中だったことから、参加者は全員女性だったが、初めて父兄を対象とした保護者会も開催し、それをきっかけとして、父親による学校での特別授業や、サマーアクティビティ期間中の父親による出前講座が実現した。

- ・難民キャンプの保護者向けの活動では、前年に続き、アラビア語文法レッスン講座を計3回(各回約10時間の構成)実施し、参加者は計30名となっている。

- ・同じく難民キャンプ内の保護者向けの活動として、保護者と子どものよりよい関係性を築くため、日常生活で実践できる親子間のコミュニケーションの改善や工夫について、実践や練習を主とした約10時間の研修を計3回開催し、20名が受講した。研修では知識などを得るために座学だけではなく、参加者がその場で実践できるワークを取り入れた。

- ・ワークでの実践を効果的なものにするため、KnKスタッフが参加者の家庭訪問を行い、実際に子どもたちと保護者の会話をモニタリングし、助言なども行った。

学習面の支援と生徒の個別サポート (ザアタリ難民キャンプ)

- ・前年度に続き、子どもの基礎学力の強化につなげるべく、アラビア語の授業を165コマ実施した。キャンプ内の学校は一コマあたりの授業時間が35分と短く、限られた時間内でカリキュラムをこなす必要がある。その結果、理解が追いつかず、高学年でも基礎的な問題につまずく生徒が一定数いる。学年に合わせた習得を目指し、生徒が苦手な文法を選定し、学習意欲を高め、楽しみながら復習できる授業を実施した。

- ・生徒の個別サポートとして、個別面談をのべ66回実施した。生徒同士の喧嘩、教員や保護者との関係に関する悩みや相談への対応や、授業中に落ち着きがない生徒や無気力な様



朝礼体操を頑張る子どもたち



サマーアクティビティに参加する子どもたち

子を見せる生徒との面談では、その行動の背景や要因を探り、アドバイスや解決策を提示した。

- ・キャンプ内の学校では、高学年のクラス長による活動も実施した。男女シフト共に立候補とクラスメイトからの投票でクラスの代表を決め、学級を超えて協力しながら校内の美化やいじめ問題への取り組みなど、学校の生活環境の改善のために活動した。学期末のクラス長によるふり返りでは、リーダーを置くことの利点や課題、同級生の協力を得る難しさについての意見を出し合い、次学期も活動を続けたいという意欲がみられた。

パキスタン

パロチスタン州における女子の安心安全な学校へのアクセス改善と教育の質の向上

■実施期間■ 2024年2月～継続中

■実施地域■ パロチスタン州ナシラバード管区ジャファラバード郡、ソバットプル郡、ナシラバード郡

■裨益者とその数■ 10歳から15歳の生徒1,379名、PTA32名、教員32名、アドボカシーグループ60名、

ネットワークグループ80名、地域住民9,600名

■パートナー・関連諸機関■ 日本国外務省、パキスタンパロチスタン州政府、ジャファラバード郡教育局、

ソバットプル郡教育局、ナシラバード郡教育局、

Yar Muhammad Samejo Educational Society & Development Organization (YMSEDO)

◇校舎の再建と女子教育の向上◇

・7月～9月にかけて大雨やモンスーンにより工事の作業が困難な時期があった。また現地では50℃ほどの酷暑が続き、日によっては60℃近くにもなった。酷暑により日中の作業が不可能となり夜間作業に切り替え、11月、小学校2校、中高一貫校1校、中学校1校の合計4校の校舎を再建させた。

・事業終了の11月30日時点、対象4校の純就学率は41%～52%から事業終了後には69%へ増加し、出席率は40%～60%から84.5%へ大幅に改善した。学校は自然災害に強い設計で建設され、壁、衛生施設が整った。

・女子教育の質の向上では、教員への能力強化の研修を実施し、入学率も30%～45%から81%へ改善した。

・学生クラブの女子たちが主体となって開催したスポーツ大会では、チームワークを促進させ、生徒たちの功績を称えるとともにたくさんの笑顔で溢れた。

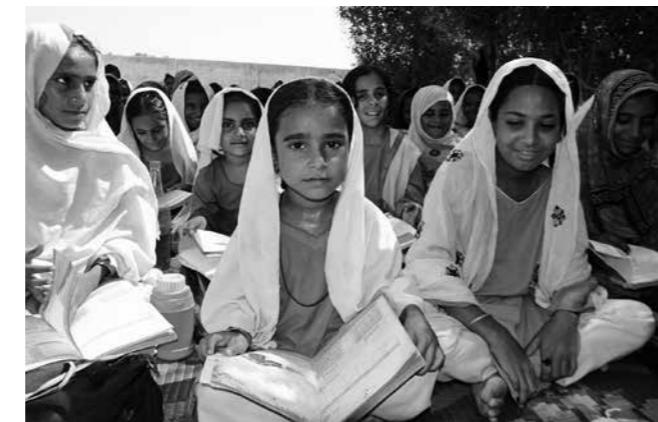
◇女子の権利擁護◇

・コミュニティへ向けたワークショップでは女子教育への理解を促進させ、児童婚やジェンダーに基づく暴力の予防と対策へ繋げるため知識を共有し地域の認識が高まった。

・地域の先輩女性が自身の進学経験を共有し、生活や教育継続などに関わる困りごとを聞き助言するメンタリングセッションを行った。この活動の中で、家庭内暴力や児童婚、女子教育の重要性に関する認識の欠如の事例4件が報告された。その後周囲の意識や支援の必要性が高まるにつれて、さらに11件が特定された。関係する地方行政のネットワークグループは会議で慎重に話し合いを行い、精神的・身体的暴力や強制的な児童労働や児童婚、名誉に基づく虐待（家族やコミュニティに「不名誉」や「恥」をもたらした、もしくはもたらす可能性があるとし虐待されること）を受けた女子た

ちを特定し、これまでに5件を適切なケアへ繋げ、現地の人々は事業後も継続して女子たちのケアに慎重に取り組んでいる。

・教育局や学校関係者、コミュニティの積極的な参画、こうした人々の熱意と献身がプロジェクトに計り知れない価値をもたらした。活動に対し地区行政からは、「パロチスタン州全体で比類のない画期的な取り組みだ」と感謝の言葉を受けた。



校舎がない学校では屋外で授業をしている



新しく完成した校舎



パレスチナ

ヨルダン渓谷における若者の社会参画支援および青少年、子ども支援の拡充

■実施期間■ 2023年2月～継続中

■実施地域■ パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区ジェリコ県ヨルダン渓谷4村

■裨益者とその数■ 18～29歳の若者24名、1～13歳の子ども492名、14～17歳の青少年83名

■パートナー・関連諸機関■ 日本国外務省、パレスチナ地方自治省、パレスチナ現地団体



◇地域活動を担う若者向け研修、フォローアップ研修、実践指導◇

・若者が地域活動を行う際に必要な知識を学べる研修を、昨年に続き実施した。研修では、SDGsを学び、SDGsと照らし合わせた時に実際に自分たちの地域でどんな活動ができるか調べる傍ら、地域住民への聞き取りや、結果の集計など、実際に活動をする際に必要なアセスメントやニーズ調査の方法も学んだ。

・研修を担当した講師とKnK職員が実際の若者の地域活動を視察し、個別面談と実践指導を行うと共に、視察で見えた課題について学ぶフォローアップ研修を実施した。

◇子ども向け活動◇

・若者が各地域において週に1回、スポーツ、音楽、演劇、美術、レクリエーションゲームなどの子ども向け活動を行った。

・子ども向け活動は保護者や地域住民に広く認識されるようになり、子どもたちにとっては友だちと楽しく過ごす時間であると共に、友だちとの関わり方や規律を学ぶ機会に、若者にとっては、地域において自分が必要とされ、活躍できる場所として、大切な機会となっている。

◇青少年向け研修◇

・若者の地域活動の一環として、時間の使い方、友だちとの話し方、自分の思いを表現する方法などを学べる青少年向け研修を実施した。

・青少年向け研修に参加した子どもが、子ども向け活動にボランティアとして参加する様子も見られ、世代間での分断が見られがちなパレスチナにおいて、地域における縦の繋がりが構築されつつある。

◇若者地域活動◇

・若者が主導となり、子ども向けオープンデーの実施や保護者向けワークショップなどの地域活動を行った。4村の若者たちが企画、主催したファーマーズマーケットでは、地域の



子ども向け活動に参加する子どもたち(上下)



住民に向けてハーブやはちみつなど各地域の特産品を販売し、活動に参加する子どもや青少年がボランティアで參加した。

・基本的には、若者たちは自分たちの居住地域で活動をしているが、お互いの活動にボランティアとして参加するなど、若者同士の横の繋がりが強化された。

◇活動拠点の整備◇

・若者の活動拠点を整備し、棚、パソコン、プリンター、カメラなど活動に必要な資機材を供与した。

・マルジナジェ村では、コミュニティのボランティアグループが子どもたちと協力して、KnKが整備した拠点の周辺を清掃、植物を植え、活動がしやすいよう日陰を作るなど、環境整備に協力してくださいました。

友情のレポーター

「友情のレポーター」は、日本にいる青少年に向けた教育プロジェクトで、日本在住の11歳から16歳までの子どもを公募で選抜し、KnKが教育活動を展開する活動地へ派遣している。レポーターたちは、現地の様子や支援を受ける子どもたちを取材しながら、彼らと交流して相互理解を深め、帰国後は取材したことを自らの言葉で学校や地域、メディアで発信し、国境を越えた人々の理解を促進する役割を担っている。1995年の開始から35回、これまでに計70名のレポーターが派遣された。



「若者の家」を取材する友情のレポーター

第35回友情のレポーター（2024年夏休み）カンボジア取材

浅島 奈央さん（派遣当時15歳／大阪府）、波田野 優さん（派遣当時14歳／東京都）

■選出方法 ■ 日本在住の11歳から17歳の子どもを対象に公募し、課題レポートと電話面接にて選出 ■ 応募者数 ■ 34名

■審査員 ■ 安田 菜津紀氏（フォトジャーナリスト／認定NPO法人Dialogue for People副代表理事）
荻上チキ氏（評論家／ラジオパーソナリティー）

■派遣日程 ■ 2024年8月5日（月）～8月14日（水） ■取材場所 ■ カンボジア（バッタンバン州）

■助成 ■ 公益財団法人三菱UFJ国際財団 ■協賛 ■ 国際ソロプロチミスト東京一広尾

■協力 ■ 認定NPO法人Dialogue for People

「友情のレポーター」の二人は、事前にカンボジアや貧困について勉強し、知識として頭に入れて出発した。

KnKの居住型施設「若者の家」では日本の子どもと変わらない様子の子どもたちと交流し仲良くなれた。日本同様の酷暑の中で子どもたちの実家を訪問。トタン屋根が熱せられ室内は高温となり、家族が外で生活している姿を目の当たりに

した。ガスや水道などのインフラは整備されておらず、生活用水として大きなカメに溜めた雨水の中には虫もいた。実際に自分の目で見て、肌で感じた現実は二人の記憶に刻まれた。一方で、仲良くなれた子どもたちの心の温かさや家族に対する思いもインタビューや交流で知ることができた。

帰国後レポート（抜粋）

スレイモンちゃんに話を聞きました。「学校で、普段勉強以外で何をしているのですか?」「好きなスポーツは何ですか?」など、簡単で答えやすい質問をしていき、最後の方に「もし、なんでも1つできるのなら、何がしたいですか?」と聞くと、彼女は「お母さんを助けたい」と言つていて、私は「お母さんを助けるために将来何になりたいですか?」と聞くと、彼女は「地域の子どもたちに勉強を教える先生になりたい」と少し照れながら言っていました。

この質問に対する答えが、私にとって1番印象に残っています。私の夢と全く一緒だからです。私は小さい時から母と2人で住んでいて、母が1人で私を育ててきてくれました。だから恩返しをしたくて、大人になったら子どもたちに勉強を教えながら母を助けようと思っていた。そして私は今まで「こんな夢を持つのは私だけ」だと思っていました。学校の先生になりたいという子は沢山いますが、先生になって子どもに寄り添いながらお母さんを

助けたいと言っている子は今まで会ったことがありませんでした。私はこの時、「これから先、スレイモンちゃんに再会できるかどうかはわからないけど、将来お互いに素敵な先生になって、お互いお母さんを助けられたらいいな」と強く思いました。



スレイモンさんにインタビューする浅島さん（左から二人目）



遠足で子どもたちと打ち解ける（中央が浅島さん）

このことについて、スレイモンちゃんのお母さんに「先生になってお母さんを助けたいという娘さんの話を聞いて、お母さんはどう思いましたか?」と聞くと、スレイ

モンちゃんのお母さんは「私を助けてくれると聞いたのは初めてです。とてもありがとうございます。しかし、私はスレイモンが幸せであることが私の1番の願いです」とお母さんがスレイモンちゃんに対する感謝の思いと、切実に幸せになってほしいという思いがこもった優しい表情をしていました。この時も、私は「きっと私のお母さんも同じことを言うんだろうな」と思ってより一層、お母さんのことを助けたいと思いました。私は2人の話を聞いて「お互いがそれ相手のことを思うということは、何よりも素敵なことであって、2人がこうして笑顔で一緒にいられることは、もうすでに大きな幸せじゃないかな」と思いました。

浅島 奈央

に、何かの問い合わせを突きつけた。家族への思いや愛の重みに、国境はない。

波田野 優



ソックンさんにインタビューする波田野さん（中）



メール語で書いた手紙を渡す波田野さん（右）

写真展／友情の5円玉キャンペーン／チャリティイベント／メディア

KnK 写真展「未来を切り拓く山奥の少女たち－パキスタン－」撮影：清水匡（写真家）

女性の識字率が低いパキスタン北西部でKnKによって再建された学校では女子生徒が強い意志をもって自分の将来に目を向けている姿があった。「村に女性医師がいないため自ら医師になって女性を助けたい」など、社会課題に向き合い自身の将来と向き合う生徒もおり、日本の人々に写真を通じて彼女たちの力強さを伝えるべく、アイデムフォトギャラリー「シリウス」（東京都新宿区）にて、KnK 写真展「未来を切り拓く山奥の少女たち－パキスタン－」を開催した。

ギャラリートークでは理事でアナウンサーの渡辺真理が司会を務め、ジェンダーの専門家でKnKの元派遣員でもある尾立素子さんをゲストに迎え、パキスタンにとどまらず日本国内のジェンダーについても考える機会となった。

友情の5円玉キャンペーン

主に小中高校生を対象とした当募金プログラムは本年で第48回目を迎えた。全国から18校、企業1社、そして個人の方々にもご参加いただき、合わせて1,033,847円（前年比60%）となり、物価高の中、たくさんの5円玉を集めてくださった。集まった募金は海外での活動に充当することができた。

東京マラソン2024が開催されました。チャリティランナーの皆さん、お疲れさまでした！



「第52回全国アマチュアオーケストラフェスティバル」に参加しました。

公益社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟メンバーのご厚意で、8月4日（日）に東京芸術劇場（東京都豊島区）にて「第52回全国アマチュアオーケストラフェスティバル」に参加し、会場ロビーで写真展示や物販を行った。同催しの一環で、楽団員にシリア難民支援の現状を伝える機会もいただいた。本年は上記含む12件のイベントを通じてKnKの認知促進に努めた。

メディア掲載

2024年のメジャーメディアへの露出数は、新聞19、雑誌・ネット等5、テレビ・ラジオ10、計34件で、前年比162%となつた。中東情勢の悪化を受け、中東の派遣員への取材が目立つた。

＜掲載記事の紹介（一部）＞

2024/6/3 京都新聞「時の人」大竹菜緒（ヨルダン派遣員）

2024/6/4 しんぶん赤旗「パレスチナの子は今」福神遙（パレスチナ派遣員）

2024/9/14 朝日新聞 SDGs ACTION! KnK 写真展「未来を切り拓く山奥の少女たち－パキスタン－」

2024/11/26 朝日小学生新聞「話して感じた 私と同世代の子の現実」～「友情のレポーター2024」カンボジア取材報告

2024/12/10 信濃毎日新聞「斜面」磯部香里（ヨルダン派遣員）

支援者・イベント参加者からいただいたメッセージをご紹介します

一年を通じて、温かいお言葉やご意見などをいただき、ありがとうございます。
いつもとても励みとなっています。今回は、一部をご紹介します。



いつも、子どもたちへ愛ある活動を有難うございます。私は他の団体にも支援させてもらっておりますが、KnKさんのが一番好きです。適度に支援者との距離感が近く、親近感がわきます。どうしても無機質な支援が多くなりがちですが、KnKさんはとても温かく、細かなところにも心配りを感じます。スタッフの方々が本当に愛ある方々なのだと。引き続き、微力ですがお役に立てたらうれしいです。

MHさま（マンスリーサポーター）

友情のレポーターのお2人の帰国後の活動に希望を感じました。伝えた先の相手に『他人事のように捉えられてしまつたかな』と感じても、お2人の言葉が相手の中でいつのどのように響くか分からぬですし、引き続き頑張ってください！私も、日本の有権者としてできることを模索して頑張ろうと思いました。

STさま
(「第34回友情のレポーター(2023)バングラデシュ取材報告会」参加者)

子どもたちが学びの場を求め、発信する心を育て、夢（具体的な夢）を大切にしている姿を知りました。実状を知ることとともに、それを超えようとする力に感動しています。

(KnK 写真展「未来を切り拓く山奥の少女たち－パキスタン－」来場者)

最後まで諦めなければいくつになつても道は開けるという気持ちが子どもたちに届く様に今年も走らせて頂きたく思います。

NYさま（東京マラソン2024チャリティランナー）

私はたまたま日本に生まれ、不自由なく生活ができ、子どもたちにも教育を施すことができていますが、アジア等旅行する中で、そうでない国があることも理解しています。ぜひカンボジアやフィリピンの子どもたちにも教育の機会を提供し、日本の子どもたちと等しく成長できる機会に貢献できればと思います。

OMさま（東京マラソン2024チャリティランナー）

私のゴールが、1人でも多くの子どもたちの学びのチャンス、そして日々の勇気や力に繋がるように願いながら走りたい。皆の心がひとつになるような時間を楽しみたいです。

THさま（東京マラソン2024チャリティランナー）

【団体組織】

■理事会■

2024年末現在、国境なき子どもたちの理事会は次の通り構成されている。また、NPO法上の社員に相当する評議員は、2024年末現在、計66名である。

会長	寺田 朗子		
専務理事	ドミニク レギュイエ		
理事	アグネス G. クィトリアーノ	ローラン デュボワ	栗林 まどか
	玉村 翔吾	君島 梨央	守谷 慧
	渡辺 真理	大竹 紗子	松浦 ちはる
監事	清水 匡 水野 太洋子		

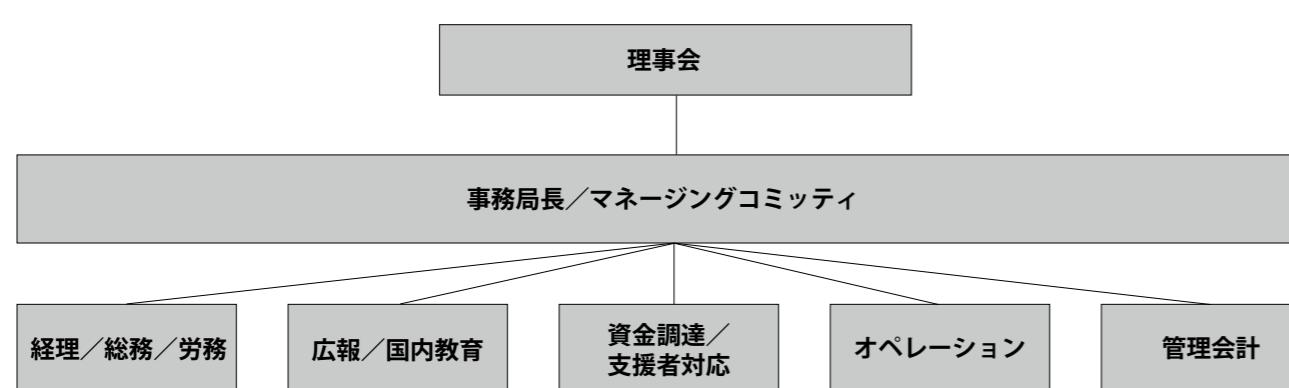
■東京事務局／海外派遣員／アルバイト／インターン／ボランティア■

東京事務局	マネージング コミッティ	大竹 紗子	清水 匡	松浦 ちはる
	職員	7名		
	アルバイト	0名		
	インターン	2名		
	ボランティア	2名(常勤)、翻訳・事務・イベントボランティアの皆さん		
海外派遣員		3名(ヨルダン)	2名(パレスチナ)	4名(カンボジア)

■マンスリーサポート／支援会員■

マンスリーサポート参加のべ件数	920件
支援会員(一般・学生)	157件
法人正会員	1社
法人賛助会員	1社

組織図

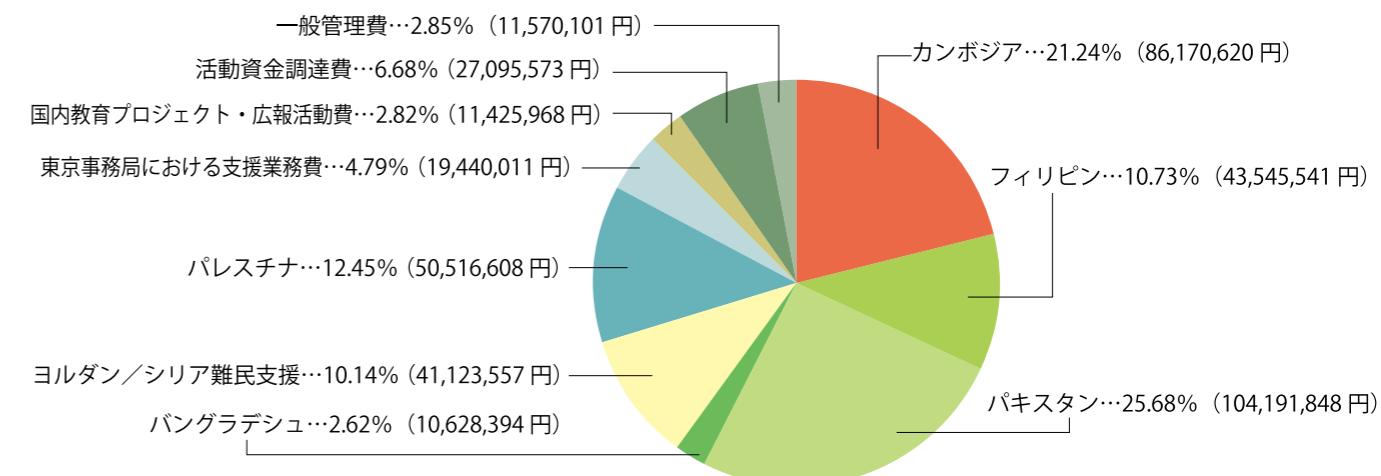


2024年度収支報告

2024年度は、経常支出405,708,221円のうち、総援助事業費(すなわち活動地における援助事業費+東京における事業実施運営費+国内教育プロジェクト費・広報活動費)が全体の90.47%を占めた。

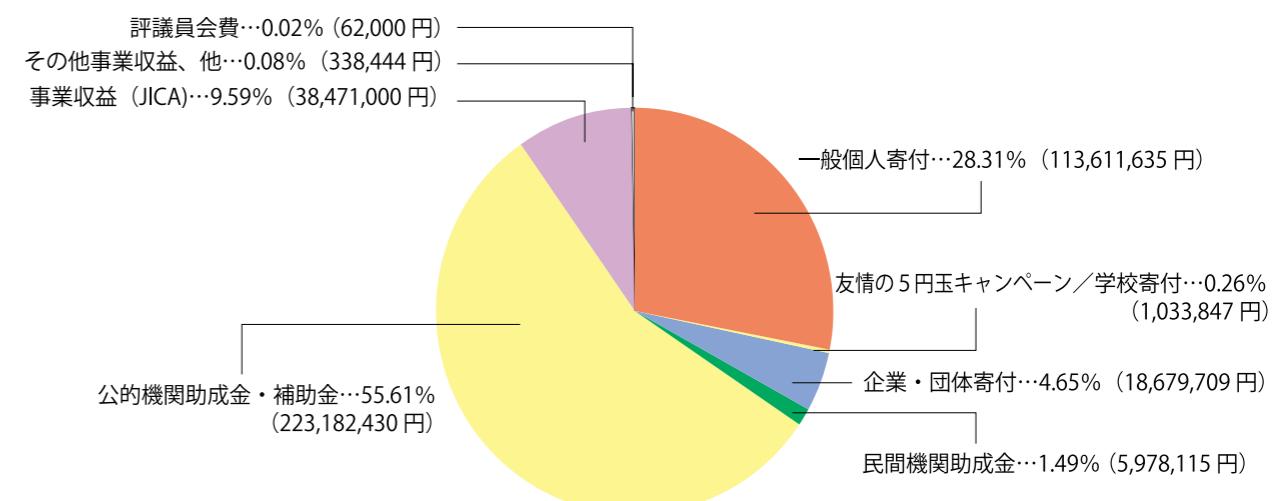
2024年度 経常支出の部

合計 405,708,221円



2024年度 経常収入の部

合計 401,357,180円



公認会計士の監査を受けた財務諸表はKnKウェブサイト(<https://knk.or.jp/knk/account/>)で公開しております。
また、郵送をご希望の方は事務局までご請求ください。

謝辞

国境なき子どもたちの2024年度における世界での活動に対し、
温かいご理解とご支援をお寄せくださいました皆さまに心より御礼申しあげます。(順不同、敬称略)



伊藤忠商事株式会社



癒しと温かな手の学校



エクスペディアグループ



ギークス株式会社



仰星監査法人



G2 Studios 株式会社



株式会社ジャックス



株式会社小学館



株式会社セーフティ&ベル



ソフトバンク株式会社



株式会社タムラ製作所



株式会社トーハン



株式会社タイソンズアンドカンパニー



寺田倉庫株式会社



ブックオフコーポレーション株式会社



Bookcafe days



ピープルポート株式会社



フレックス株式会社



リンベル株式会社



公益財団法人ウェスレー財団

【法人正会員】

株式会社 UnByte

【法人賛助会員】

株式会社 MT Globe

【企業の皆さま】

株式会社アイデム / アイデムフォトギャラリー「シリウス」 / アプライドマテリアルズジャパン株式会社 / 株式会社アレッポの石鹼
 株式会社イニュニック / 株式会社 NYC / カットインタイム / 金坂医院（千葉県） / G.I.P. Tokyo / シードテック株式会社
 JGC Digital 株式会社 / 株式会社ジェイディ / ジュニパーネットワークス株式会社 / 食卓パンの店ロコパン
 株式会社チームメイプル / 株式会社ビルダリッジ / 株式会社 Building Face / 株式会社フレックスインターナショナル
 株式会社堀内カラー / 株式会社マジオネット / マナトレーディング株式会社 / 株式会社ミスター・パートナー
 株式会社 Mim コンサルティング / LINE ヤフー株式会社 / Rond ○ Rond、ほか

【個人の皆さま】

個人支援者の皆さま / マンスリーサポーター、一般支援会員、学生支援会員の皆さま
 国境なき子どもたち（KnK）事務局 & イベント & 翻訳ボランティアの皆さま / 国境なき子どもたち（KnK）支援委員会の皆さま
 友情の5円玉キャンペーンにご参加くださった小中高校生と一般の皆さま
 バレンタイン & ホワイトデー「+1」キャンペーン2024にご参加の皆さま
 国境なき子どもたち（KnK）主催・共催イベントにご参加の皆さま
 安田菜津紀さま / 萩上チキさま / 尾立素子さま / 猫ひろしまさま
 ボストン・レッドソックス吉田正尚さまと Syncable を通じてご賛同の皆さま / まゆさまと Syncable を通じてご賛同の皆さま
 エクスペディアグループ社員の皆さま / ギークス株式会社社員の皆さま / G2 Studios 株式会社社員の皆さま
 シードテック株式会社社員の皆さま / 株式会社ジャックス役職員の皆さま / ジュニパーネットワークス株式会社社員の皆さま
 ソフトバンク / ソフトバンクグループ社員募金にご参加の皆さま / ソフトバンク「つながる募金」にご参加の皆さま
 ブックオフ「キモチ。」ご参加の皆さま / ヤフー募金ご参加の皆さま / ZERO PC「想うプロジェクト」にご参加の皆さま
 第52回全国アマチュアオーケストラフェスティバル東京大会にご参加、ご来場の皆さま
 東京レガシーハーフマラソン2024チャリティおよび東京マラソン2025チャリティのチャリティランナーの皆さま、ご賛同の皆さま
 （※ KnK は、東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART の寄付先団体です）

【学校教育関連機関の皆さま】

岩手県高等学校教職員組合 / 雙葉学園同窓会 / 雙葉小学校 / 雙葉小学校附属幼稚園 / 田園調布雙葉中学高等学校エリザベット会
 京都府亀岡市立育親学園、亀岡中学校、東輝中学校、詳徳中学校、南桑中学校、大成中学校、亀岡川東学園の各生徒会
 恵泉女学園中学・高等学校 / 香蘭女学校 / 自由学園 / 頌栄女子学院 / 全国退職女性校長会（梅の実会） / ラ・サール学園
 宮城県立仙台東高等学校 / 東京都文京区立第六小学校 / 大阪府泉佐野市立中央小学校、ほか

【民間機関の皆さま】

一般社団法人いけばなインターナショナル / 公益財団法人風に立つライオン基金 / かみひとねっとわーく京都
 一般社団法人 K2 アカデミー / 特定非営利活動法人国際協力 NGO センター / 特定非営利活動法人国際支援活動協会
 生活協同組合パルシステム東京 / 國際ソロプロチミスト東京 - 東 / 國際ソロプロチミスト東京 - 広尾
 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム / 宗教法人真如苑 / 全国友の会 / 認定 NPO 法人 Dialogue for People
 一般財団法人東京マラソン財団 / 公益財団法人東京 YWCA 國際語学ボランティアズ（ILV）/ 傳明寺（長崎県）
 東京ウィメンズクラブ / 一般社団法人日本弱酸性美容協会 / 特定非営利活動法人ベースボール・レジエンド・ファウンデーション
 公益社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟 / 丸の内交響楽団 / 公益財団法人三菱 UFJ 國際財団 / 一般財団法人ゆうちょ財団、ほか

【公的機関の皆さま】

日本国外務省 / 独立行政法人国際協力機構、ほか

お預かりした貴重なご寄付は、各地の青少年への教育・自立支援活動などに大切に使用させていただきます。
 世界における中長期的な活動に向けて、2025年以降も引き続きご支援ご協力をお願い申しあげます。

「マンスリーサポート」申込書

のりしろ

【ご支援のお願い】

これからも子どもたちの尊い学びを支え続けてください。

※ KnK は東京都知事より認定を受けた「認定 NPO 法人」です。ご寄付は、確定申告により税控除を受けることができます。

＜いろいろな支援の方法があります＞

◎マンスリーサポーター（毎月、一定額を自動引落し）

KnK マンスリーサポーターになってくださる方が増えますと、長期にわたり安定して子どもたちへの支援計画を立てられ、子どもたちが安心して学校に通い生活できます。KnK はマンスリーサポーターになってくださる方を心からお待ちしています。

すでにマンスリーサポーターでいらっしゃる皆さまには、日頃のご支援に心より感謝申しあげます。この機会に増額をご検討いただけますと幸いです。

- ・ 月 1,000 円からご支援いただけます。
- ・ 金融機関からの自動振替により、お振込みの手間が省けます。
- ・ 右のマンスリーサポート申込書または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ クレジットカードからの自動振替をご希望の方は KnK ウェブサイト上でのみ受付けております。

◎支援会員（年1回のご納入）

年間を通じて、いつでもお振込みいただけます。年度会費はすべてのご寄付と同様に KnK の支援活動費に充当されます。KnK に対する権利や義務を伴うものではございません。毎年継続の義務はございませんが、子どもたちに安定した支援を行うために、できましたら継続してお納めいただけますようお願いいたします。クレジットカードからは、毎年1回の自動継続振替を承ります。

一般支援会員 12,000 円 学生支援会員 5,000 円
法人正会員 100,000 円 法人賛助会員 50,000 円

- ・ 本報告書に添付された郵便払込用紙または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ 法人会員につきましては、年次活動報告書やウェブサイトでお名前をご紹介させていただきます。

◎ 随時（単発）寄付

ご都合のよい時に、任意の金額でいつでもご支援いただけます。右の払込手数料など免除口座宛の郵便払込用紙でゆうちょ銀行の窓口から、または KnK ウェブサイトでクレジットカードからお申込みください。

右の QR コードをスマートフォンやタブレットのカメラで読み取ると KnK ウェブサイトが表示されます。



knk.or.jp

◎ 遺贈・相続財産からの寄付

大切な方やご自身の遺産を、困難な状況にある子どもたちの未来にお役立てください。遺贈とは、遺言により財産のすべて、もしくは一部を無償で譲与するもので（民法 964 条）、相続財産からのご寄付と共に相続税の課税対象から除外されます。遺贈について詳しく説明したパンフレットがございますので、KnK 東京事務局へご請求ください。



【支援に関するお問い合わせ先】

サポートー専用 TEL : 03-6279-1128 (平日 10:00 から 18:00) メール : shien@knk.or.jp

※印は必須項目		「マンスリーサポート」に参加します	
		□毎月 1,000 円 (50 円 × 20 日)	
		□毎月 1,500 円 (50 円 × 30 日)	
		□毎月 3,000 円 (50 円 × 30 日 × 2 口)	
		□毎月 _____ 円 (任意のご支援額)	
※ ご住所	フリガナ	性別	□ 男性 □ 女性
※ お名前	()	※ 生年	□ その他 □ 無回答
※ お電話	-	西暦	年
アドレス	@		

「マンスリーサポート」にぜひご参加ください。
便利な口座振替をご利用いただけます。①民間金融機関または②ゆうちょ銀行をお選びください。
国境なき子どもたち(KnK)へのご寄付は寄付金控除の対象となり、確定申告により税制上の優遇措置を受けられます。
「マンスリーサポート」の受領書は毎年2月第1週に前年分の寄付をまとめてお送りいたします。
この用紙を切り取り、のりしろで貼り合わせると封筒になります。切手は不要です。

預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書 (収・加)				AR25
① 民間金融機関		② ゆうちょ銀行		
金融機関コード	支店コード	種目コード	契約種別コード	記号 (※複数ある場合は6桁まで記入ください)
フリガナ	フリガナ	1 6 6	3 0 1	0
預金種目	1.普通(総合) 2.当座	口座番号 (右詰め) (お書きください)	払込先 口座番号	00120-2-727950
口座名義人	フリガナ	預金番号	払込先 加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
◆ 振替・払込日は毎月 27 日(土日祝日の場合は翌営業日) ◆ ネット銀行などで届印がない場合は□して下さい → □ 届印なし (ゆうちょ銀行を除く)				
◆ 自動振替は変更・停止のご連絡がない限り、2年目以降も継続させていただきます。マンスリーサポートの変更・停止は国境なき子どもたちまでご連絡ください。				
◆ 皆さまの個人情報は厳重に管理し、国境なき子どもたちからの活動状況のお知らせなどの目的にのみ使用し、第三者への個人情報開示は行いません。 国境なき子どもたちの個人情報保護方針は、ウェブサイトからご覧いただけます。knk.or.jp/privacy				
不備がありましたら、右記該当箇所に○印をつけて下記にご返送ください。 ※ 民間金融機関の場合 〒804-0067 福岡県北九州市戸畠区 〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22 特定非営利活動法人国境なき子どもたち 株式会社ジャックス 口座振替係宛 ※ ゆうちょ銀行の場合 〒804-0067 福岡県北九州市戸畠区 〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22 特定非営利活動法人国境なき子どもたち 株式会社ジャックス 口座振替係宛 ※ ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込規定が適用されます。				
印鑑相違 2.印鑑不明 3.預金種日相違 4.口座番号相違 5.名義人相違 (備考)				
印鑑	印鑑照合	受付印		

のりしろ (上端と貼り合わせてください)

払込取扱票		AR25
99	口座記号番号	料金
0 0 1 9 0 - 2 - 3 6 4 9 4 6	金額	免
加入者名	料金	備考
ご依頼人・通信欄	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち	
おところ・おなまえ (郵便番号 -)		
(電話番号 - - -) 生年 西暦 _____ 年		
◆ 世界各地で助けを必要とする青少年の教育支援・生活支援のために寄付します。 □ 12,000 円 □ 9,000 円 □ 6,000 円 □ _____ 円 (任意のご支援額)		
◆ 国境なき子どもたちの支援会員/法人会員として年度会費を納入します。 □ 一般 12,000 円 □ 学生 5,000 円 □ 法人正会員 10 万円 □ 法人賛助会員 5 万円		
メールアドレス (メールマガジンをお届けします) @		
日附印	ご依頼人欄に、おところ・おなまえをご記入ください。(承認番号 第62489号) これより下部には何も記入しないでください。	
料金	(消費税込み) 日附印	
備考		

振替払込請求書兼受領証

0 0 1 9 0 - 2	3 6 4 9 4 6
加入者名	金額
おなまえ	千 百 十 万 千 百 十 円
ご依頼人	料金
日附印	備考

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。



1997 日本のNGOとして国境なき子どもたち(KnK)設立

2000 特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都に認証される

カンボジアにて初の自主運営プロジェクト「若者の家」開設。
その後、活動国が3ヵ国(カンボジア、フィリピン、ベトナム)に増え、15歳以上の青少年に特化してプロジェクトを進める。

2004 自然災害における緊急支援活動

スマトラ沖大地震・津波発生を受け、インド、インドネシア、タイにおいて、15歳以上に限らず、被災した子どもたちに対して教育を意識した活動を行う。KnK初の緊急支援となる。その後、パキスタン北部地震、インドネシア・ジャワ島地震など自然災害において緊急支援活動を行う。

2006 紛争や戦争などの影響を受けた青少年支援を開始

騒乱により治安が悪化した東ティモールにて、行き場を失った若者にスポーツの機会を提供。KnKのスポーツ施設がピースセンターと呼ばれるようになった。その後、ヨルダンにて、イラク難民の子どもたちに音楽や美術などの機会を提供し、心的ケアにつながる活動を展開する。

2010 国税庁長官より、認定NPO法人としての認定通知を受ける

パキスタン北部地震やバングラデシュのサイクロン被害など、緊急支援で活動を開始した地域でも、中長期的なスパンで子どもたちが継続して教育を受けられるように支援を切替えていった。

2011 3月11日、東日本大震災発生、国内で初の緊急支援活動を開始

震災発生直後に調査を開始。その後、岩手県沿岸で学校再開に必要な物資(制服、PC、ロッカー、スクールバス、教職員住宅など)を支援。陸前高田市で移動型子どもセンター(バス)を運行し、子どもの居場所を提供。釜石市に開設した事務所を拠点に、きめ細かい支援を行った。



2013 シリア難民に対する教育支援をヨルダンで開始

シリア危機により大量の難民が発生。ヨルダン北部に設営されたザタリ難民キャンプには、一時20万人もの難民が押し寄せた。KnKは難民キャンプ内の公立学校で音楽や美術などの授業の提供を開始した。

2017 女子教育向上を視野に

2005年に発生したパキスタン北部大地震で倒壊した学校再建事業により、山岳地域の女子就学率の低さがわかり、女子教育向上の支援を開始した。

2020～2021 新型コロナウイルスの猛威を受け、緊急支援活動を実施

全世界で大流行となった新型コロナウイルスにより、各国でロックダウンや学校閉鎖に陥り、貧困地域では日々の生活が脅かされ、マスクなどの衛生用品を手に入れることもままならなかった。フィリピン、カンボジア、パキスタン、バングラデシュで緊急支援として衛生用品や食料配布などを実施した。

2022 パキスタンで発生した大洪水被害を受け緊急支援を開始

国土の1/3が浸水するなど甚大な被害を受けたパキスタンで、シェルター支援や衛生用品の配布を実施した。

2024 バングラデシュで発生した大規模水害を受け緊急支援を実施

女性、子ども、高齢者、障がいを持たれる方の家庭へ優先的に食料品、医薬品、応急手当、石鹼などの衛生キットなどの配布を実施した。

皆さまのご支援をお願い申しあげます



URL **KnK.or.jp**

預金口座振替規定(ゆうちょ銀行以外の金融機関ご利用の場合、ゆうちょ銀行様)
私が支払うべき料金等について銀行請求書が送付されたときは、私に通知する
ことなく、請求書を記された金額を預金口座から引落しのうえお支払いください。
振替日が変更された場合には、引落しの日をもって処理されても
お預け金額が変更されません。引落しの日が金請求書の提出の必要はありません。
預金の引落しあたっては、当座勘定規定または預金規定にかかる、当座小切
手の振出または預金払戻請求書の提出はいたしませんから、銀行所定の方法で処理
してください。

この預金口座振替契約は、貴行が必要と認めた場合には、私に通知することなく、
解約されても異議はあません。お預け金額を変更する場合は、預金口座から引落しのうえお支払いください。
預金口座振替契約は、預金口座の追加利用、または変更があっても本書は有効として扱
われてもさしつかえありません。引落しの日が金請求書の提出の必要はありません。
この預金口座振替について仮に紛糾が生じても、貴行の責によるものを除き、すべ
て私と株式会社ジャパンストとの間ににおいて解決するものとし貴行にはご迷惑をかけ
ません。

- (ご注意)
この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号および金額を記入する際は、枠内にはつきりと記入ください。
また、用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・預込みの際、法令等に基づき、依頼人様(および代理人様)の連絡免許証等、顔写真付きの公的証明書類のご提示をお願いする場合があります。
・この用紙の通信欄・ご依頼人に記載されたおとこおなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この用紙をゆうちょ銀行または郵便局に預けになるときは、「預り証」を必ずお受け取りください。
この用紙をゆうちょ銀行または郵便局に預けになるときは、「預り証」を必ずお受け取りください。

こちらの青色の払取扱票を使い、窓口でお払みいただけますと、振込手数料や硬貨手数料等の料金が全て免除になります。

※ATMやゆうちょダイレクトをご利用の場合は料金免除の対象外につき、各種手数料が発生しますので、ご注意ください。

※郵便局に備え付けの払取扱票(青)をご利用の場合、窓口で「料金免除口座への送金です」とお伝えください。

ご寄付はKnKウェブサイトから、クレジットカードでもお申込みいただけます。



TEL:03-6279-1126 FAX:03-6279-1127
E-mail:shien@knk.or.jp
URL:knk.or.jp
〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22
国境なき子どもたち 東京事務局



収入印紙
課税相当額以上
貼付



認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

2024 年度活動報告書

2025 年 5 月 20 日発行

禁 無断複製・転載

認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

会長 : 寺田 朗子

専務理事 : ドミニク レギュイエ

東京事務局 : 〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-3-22

TEL : 03-6279-1126

センター窓口 TEL : 03-6279-1128

FAX : 03-6279-1127

E-mail : kodomo@knk.or.jp

URL : knk.or.jp



写真クレジット : 清水匡、国境なき子どもたち

印刷・製本 : 株式会社イニュニック

表紙写真： フィリピンの「若者の家」で生活する青年が描いた絵



これは、JANIC の「アカウンタビリティ・セルフチェック 2021」マークです。
JANIC のアカウンタビリティ基準の 4 分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について
当団体が適切に自己審査したことを示しています。